

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |              |           |        |           |
|----------------|--------------|-----------|--------|-----------|
| ○事業所名          | チャイルドウィッシュおろ |           |        |           |
| ○保護者評価実施期間     | 令和8年6月1日     |           | ～      | 令和8年6月20日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | 21名(17家庭) | (回答者数) | 13名       |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年6月1日     |           | ～      | 令和8年6月20日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | 7名        | (回答者数) | 7名        |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年7月7日     |           |        |           |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                                                               | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                                                         | さらに充実を図るための取組等                                                                                          |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 朝礼・職員会議などで児童の様子を共有したり、支援内容を共有したり見直したりして今の子どもたちの発達内容に合わせた支援を提供できるよう連携をとっていること。                                            | 出勤時間が常勤とはズレる非常勤の職員に対しては、出勤時に常勤職員が要点をまとめてその日の連絡事項などを共有するようになっている。                                                                              | 限られた時間の中でも、短時間のミニカンファレンスなどを通して全職員が日中の活動で気づいた子どもの小さな成長や、新たな発達課題、対応の工夫などをスムーズにフィードバックできる仕組みを整えていく。        |
| 2 | 支援の内容や子供の日々の様子について、HUGや懇談会などで日々、または定期的に保護者と共有しあっていること。また、HUGやLINE・電話などで保護者から連絡や相談を受けた時には対応について都度職員と相談・決定して早めの対応に努めていること。 | 子どもの将来の相談や日常での質問ごとなどは可能な限り速やかに共有するが、不確実な回答で保護者を不安にさせないよう、即座に答えることが難しい内容についてはその場で即答せず、「確認のうえ追ってご連絡する」旨をまずお伝えするなど、迅速でありつつ確実に安心感を持てる対応を第一に行っている。 | 保護者からの相談に対して、職員間で速やかに連携し、誠実かつ迅速に対応できている現状をベースとし、今後は対応のスピードと質をさらに安定させるためにLINEなどのツールを使った仕組み化・安定化に取り組んでいく。 |
| 3 | 過ごしやすい気温の時など、出かけやすいときには近くの公園まで行き、他校の児童とかかわる機会があれば促すなど、地域交流の機会を持てるようにしていること。                                              | 公園に行った時などに、子どもたちの様子を見て誘い方を伝えたり、以前遊んだことのある児童がいるときには子どもたちが気づけるようさりげなく声掛けしたりしている。                                                                | 公園等の外出先で、職員の仲立ちにより他校の児童との自然な関わりを持てている現状をベースとし、今後は子どもたちが主体的に、自信を持って他者と関わる力を育めるよう関わっていく。                  |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                                                      | 事業所として考えている課題の要因等                                                                            | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                                             |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 地域の他の児童と関わる機会の有無について、保護者に十分に共有されていない。                                                                           | 公園等への外出時、他校の児童との交流機会があるが、HUG等の記録で伝えても十分に伝わっていない。                                             | 外出時には写真の掲載などを極力行っていくなどして、文章と映像両方で記録を残せるようにしていく取り組みを引き続き行う。<br>懇談会などで他校の児童との交流の様子を伝えるなど、保護者に直接伝える取り組みもしていく。                       |
| 2 | 保護者同士の交流やきょうだいの交流の機会が設けられているかどうか保護者に十分に伝わっていない。                                                                 | HUGやLINEを使ってイベントの紹介と参加の可否など案内をしているが、そのほかの連絡事項に徐々に埋もれてしまっている可能性がある。                           | イベントの内容と参加可否の締め切りを共有することを前提にして、締切日が迫ってきた際に再度案内したり送迎時に保護者に確認したりするなどして、保護者に交流の機会があることを周知できるようにしていく。                                |
| 3 | 子どもたちの安全・安心を第一に考えた日々の活動スペースの確保や、各種マニュアル（事故防止・緊急時・防犯・感染症対応等）の整備、定期的な避難訓練などの実施内容について、保護者に見える形での発信や周知が十分に行き届いていない。 | 活動スペースの安全な確保や日々の衛生・防犯管理については『目に見えにくい配慮や環境設定』であるため、意識的にその意図や取り組みを言葉等にして発信・視覚化することが十分に行われていない。 | 実施した避難訓練や防犯訓練の様子、日々の安全なスペースづくりの工夫などについて、引き続きHUG等の連絡ツールを活用して写真や具体的なエピソードを添えて積極的に発信するとともに、懇談会などでその時の様子を伝えるなどして、安全体制の『見える化』の向上に努める。 |